

博多湾鉄道沿線名勝案内(2)

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群 (27)

大正十三年(一九二四)『博多湾

鉄道沿線名勝案内』を詳しくながめてみます。左ページの右下の図は須恵町を中心に切り取ったものです。酒殿からは志免・旅石駅へ分岐線が延びています。この線路は廃線後もしばらく遺されていて、乙植木から酒殿の交差点へ向かう途中、列車の通らない線路が道路を横切っていたものでした。今は線路は撤去されましたが、線路敷は残っていて、往時は残っていませんが、現在の水戸病

院西側にある坂道が志免駅から旅石

駅へとつながる線路の跡です。

新原駅に「海三四坑」、須恵駅に「須恵坑」「壽坑」、旅石駅に「粕屋二坑」「海六坑」「粕屋一坑」「海二重坑」「海五坑」「海七坑」、酒殿駅に「植木坑」「仲原坑」といった炭坑名が見えます。「海」は海軍の略です。宇美駅より南には「大谷坑」「勝田坑」があります。

次に、説明文を読んでみましょう。

「酒殿駅は志免貨物線の分岐点である。休む時なく黒ダイヤを搬入し搬

出する。くる列車も出る列車にもダイヤが黒く光る。いよいよ粕屋炭田

―地中の富を想わする―粕屋炭田に乗り入ったのである。この先、到るところに黒ダイヤの山がつづく(注ボタ山のこと)。須恵・新原・宇美・志免・旅石……聞くだけで石炭を、地中の富を想わする炭坑地帯をつきすすむのである。沿線の石炭! 地中の宝庫―は無尽蔵に近い。

……
若杉山が接近して来て其山気迫る様に感ぜらるる所に須恵駅は建つ。

遠近の烟突から吐き出さるる黒煙に積尊空海や、旧藩主が奉行を置いて産業奨励に尽した皿山、金鏽焼の名を残す皿山の全盛時の追想もかき消されてしまう。

新原は海軍燃料廠採炭部の所在地で著名である。採掘すでに多年、今後尚幾十年の生命を有する海軍炭坑、採掘排水! 通気―運搬―選炭に従業者の待遇―慰安に坑内外の諸施設に全てに模範的であり、大規模である海軍炭坑で名高い所である。

……本社既設線の終端宇美は表粕屋第一の繁栄地である。石炭は宇美の生命であり、宇美は粕屋の宝庫である。曰く大谷炭坑、曰く勝田炭坑、大炭山で宇美は栄え町は賑う。」

